

中央教育審議会大学分科会
2019年08月09日

教育と研究を両輪とする高等教育 新たなる時間・人生・社会のマネジメントに向けて



岩波新書
1736



吉見俊哉
(東京大学)



岩波新書
1736

話の要点

はじめに 屋上屋を重ねた「教育と研究の両輪」

1. 有限な時間のマネジメント

(1) 履修科目数の大幅削減：国際標準化

(2) 初期教員キャリアの再設計

→ 大学の制度疲労を越えて

2. 文理「融合」から文理「複眼」へ

(1) 21世紀の宮本武蔵

(2) 2045年の地球社会と大学教育の使命

はじめに 屋上屋を重ねた「教育と研究の両輪」

- 教育と研究を両輪とするユニバーシティの誕生(独)
 - ←フンボルト原理(19c~):ゼミ(文系)と実験室(理系)
- カレッジ+グラデュエートスクール=大学の発明(米)
- 戦前期日本における旧制高校と帝国大学:
 - 帝国大学=ユニバーシティ(独) 専門的研究教育
 - 旧制高校=カレッジ(英米) リベラルアーツ教育
- 占領期改革:旧制高校解体と一般教養教育の導入
 - カレッジの解体→ユニバーシティへの内部化
 - 学部後期課程(ユニバーシティ=独)と大学院修士課程(グラデュエートスクール=米)の二重構造
- 大学院重点化による学部後期課程の曖昧化

ポストユニバーシティ時代のポストフンボルト原理₃

1 有限の時間のなかにいる学生と教師

□ 就職活動の時期・期間の問題

→ **学修時間を圧迫**

□ 学部1～3年の教育が非常に大切であるが、授業がつまらないという学生の声も聞こえてくる。一つ一つの授業科目のクオリティが重要

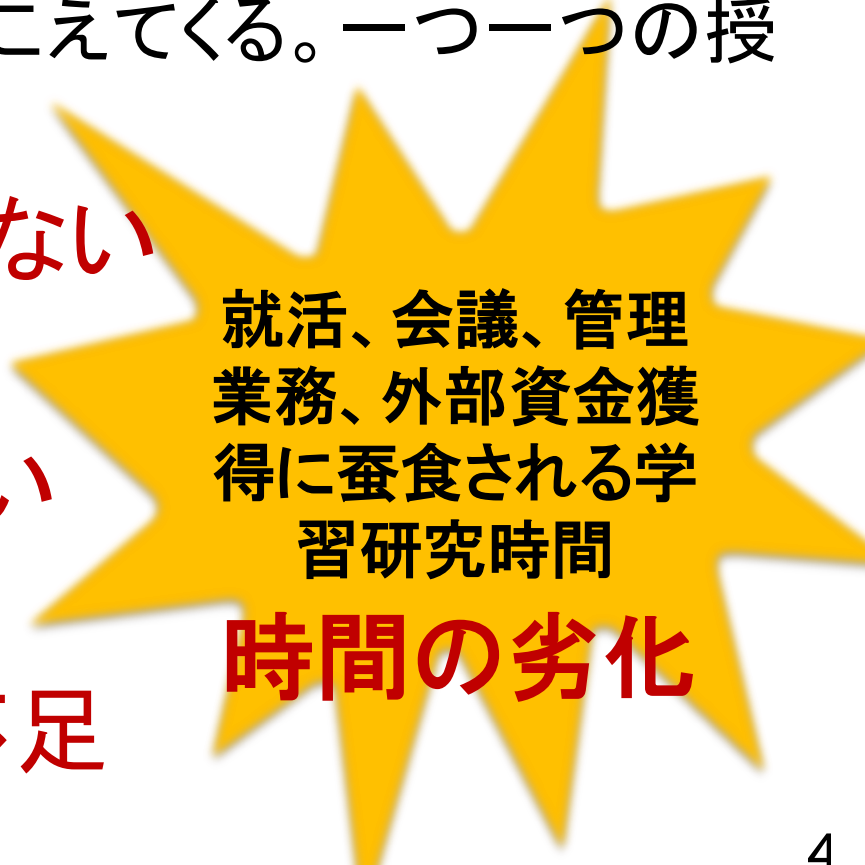
← **忙しすぎて準備できない**

□ 大学教員の教育力の劣化

← **忙しすぎて高まらない**

□ 研究力低下の本質とは何か

← **集中できる時間の不足**



就活、会議、管理
業務、外部資金獲得に蚕食される学
習研究時間

時間の劣化

履修科目数の大幅削減：学生

- 学生が1学期間に履修する科目数：
 - 米国：4～5科目 4年間で30科目程度
→ 1週間に2～3回の授業：ゼミに近い
 - 日本：10～12科目 4年間で60～70科目
→ 1週間に1回の授業：出席して渡り歩く
- 科目平均単位： 米国：3～6単位/学期 → 落とせない
日本：1～2単位/学期 → 捨てられる



似て非なる
日米の授業

大学＝意欲ある優れた教師と学生の出会いの場

←「多く、軽く」から「少なく、重く」への転換

- 各週2～3回の開講、予習・復習(実質的な学修時間)の徹底
- 履修のスーパーマーケット型からコーチング型への転換
- 4年間で学ぶ30～35科目の学生視点での設計

開設科目の大幅精鋭化：教師

● ST比だけに還元できない科目過多の授業体制

- 大教室講義中心授業 ←知識網羅主義：すべてを教えないと気がすまない教授たち(学生の潜在的可能性の過小評価)
- 科目数が多いことによるシラバスの負担感、授業に忙殺
- チームティーチングの未発達
- 非常勤講師への依存(質の凸凹、体系性の欠如)

→ 科目数の大幅削減とチームティーチングの戦略的導入

- シラバスの日本的解釈の是正(脱商品カタログ)
 - 米国:10~15頁 学生との契約書、シナリオ
 - 日本:1~2頁 15項目のテーマ+参考文献
- TAの日本的解釈の是正(キャリアとしてのTA)
 - 米国:初期キャリア=トレーニング → 授業+評価も担当
 - 日本:教授のお手伝い=大学院生への経済支援

時間に余裕
がない日本

→ 非常勤講師依存からTA組織化への抜本的転換

初期キャリアの再設計：TAと非常勤講師

- 準教員としてのTA：日本的解釈からの脱却
 - 少人数討論クラスのコーディネーター
 - 個々の学生の小レポートへの丁寧な指導
 - 学生＝主演、TA＝ワキ役、教授＝演出家
 - 教授＋TAによる授業設計 → シラバス制作
 - TAの組織的トレーニング（東大FFP）＋評価の仕組み
 - TA＝教育の初期キャリア業績 → アカデミックトラック
 - 博士課程学生の支援策としてのTA：日本はこれだけ？
- ⇔ 日本の大学における非常勤講師への依存：
- ST比問題の弥縫策
 - 教育のばら売り（科目の細分化）＋能力の不統一
 - 高学歴非正規低賃金労働者としての非常勤講師

大学の制度疲労を越えて

教職員の疲労

(会議、規則遵守、評価)

学生の疲労

(履修科目数、就活)

社会の疲労

(入試、少子高齢化)

実質的学修時間の少なさ
(科目の網羅主義的細分化)

履修科目数の半減
科目当たり週授業数の倍増

コーチング型の深い学び
スーパー的網羅主義からの脱却

大学生の複数世代化

高学歴人材のキャリアパス

専門的職員の決定権

夏休みの国際標準化

国内外長期サマープログラム

世界の才能を結集

日本の大学の国際的地位

時間のマネジメント

教員の管理業務軽減

優秀な離職者の再就職

大学の魅力再生

才能の確保

2 学位プログラムにおける「文系」と「理系」

□ 文系を選ぶと将来ビジョンが見えにくい？

← 大いなる誤解：日本人の技術信仰

□ 文理は「融合」すればいいのか？

← 理系思考の文系思考の違いを生かす

□ 現在からは思いもよらない社会とは？

→ 非連続面をジャンプさせる知の修得

□ 2030年から2050年のあるべき国家像、社会像を明示

→ 未来の予測と連続性の批判＝価値の創造

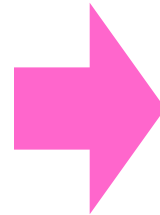
□ 社会全体で大学が本来の役割を果たせるように支援

→ 「大学本来の役割」とは何か？

21世紀はデータサイエンスの時代？

統計的予測:

- 天気予報
- 選挙予測
- 株式予測
- 需要予測
- 景気予測(中期)
- 人口統計(長期)



ビッグデータ解析:

- 消費者行動
- 農業経営
- 交通システム
- エネルギー需要
- 災害対応
- DNA解析

データサイエンスの隆盛

Big Data, AI, 可視化, IoT

データ空間のなかでの変化の連続性

集合的なデータ⇒個別的なデータ

フィルター・バブル(E. Pariser): アマゾンの推薦、ポスト真実

歴史的な非連続性のモメント

● 大災害

関東大震災(1923), 東日本大震災 (2011).....

● 経済恐慌

大恐慌 (1929), リーマン・ショック (2008)...

至るところで
価値軸の断層

● 戦争・テロ

第二次世界大戦 (1939-45), ベトナム戦争(1955-75), 9・11.....

● 革命・体制転換

フランス革命 (1789), 明治維新(1868), ロシア革命 (1917).....

● イノベーション・大発見

新大陸発見 (1492), 産業革命, トーマス・エジソン, ヘンリー・フォード, スティーブ・ジョブス.....

さらに、文化的多元性も

「役に立つ」とはということか？

目的に対する手段として「役に立つ」こと

＝目的遂行的(＝手段的有用性)

目的・価値を創出することで「役に立つ」こと

＝価値創造的(＝価値反省的)

手段的有用性は、与えられた目的に対してしか、「役に立つ」ことができない。

→目的についての価値尺度が変わると「役に立つ」という合意は消える

- なぜ、ソニーはアップルになれなかったのか？ →日本の家電産業の没落
- 東京五輪2020の混迷 ← 東京五輪1964の価値軸の継続「速く、高く、強く」
⇒新しい価値軸としての「ゆっくり、末永く、愉快地」

価値創造的: 変化する多元的な価値の尺度を視野に入れる力

「目的遂行的知(工学系?) = 短く役に立つ」(3~5年)

「価値反省的知(人文系?) = 長く役に立つ」(30年~1000年)

中長期的な有用性としての文系の知

有用性における異なる時間尺度:

目的遂行的有用性=短期／価値創造的有用性=長期

← ウェーバー: 目的合理性／価値合理性

19世紀の人文社会科学 ← 産業革命

50-500 年

人文学

- 文化
- 記憶
- 世界像

15-50 年

社会科学

- 世界経済
- 国際関係
- 国内政治

3-15 年

工学

- 情報技術
- 生命科学
- 環境科学

人文科学

融合ではなく複眼が必要

データ科学

文理融合から文理複眼へ：21世紀の宮本武蔵

理系

価値創造的で目的遂行的な知

文系

- | | | |
|----------|---|----------|
| データサイエンス | ↔ | 法学 |
| 映像工学 | ↔ | 美学 |
| 環境科学 | ↔ | 歴史学(東洋史) |
| 医学 | ↔ | 哲学 |
| 防災工学 | ↔ | 社会学 |

1本目の刀

【モデルの装
置への実装】

2本目の刀

【テキストの精
密な読解】

複眼的教育研究体制

メジャーマイナー／ダブルメジャー

学位プログラムは一元思考に陥っていないか？ → 複眼的仕組みへ



大学の再定義：グローバルな課題と価値創造

国民国家の未来から地球社会の未来へ

目的遂行的
な有用性

高等専門学校
アカデミー

医学、法学、
工学、経営学、
農学 etc.

環境、情報、
リスク etc.
課題発見の
実践知

グローバルな未来創造

グローバルな課題



地球社会の大学



グローバルな教養



国民国家の
大学

哲学、数学、
美学、人文学、
史学 etc.

新しい
地球社会
の哲学・思想

グローバルな知的遺産

ベルリン大学
フンボルト原理

価値創造的
な有用性

文学部の新たな使命

第三の輪としての社会的実践

